

誰と交際してはいけないか

コリント人への手紙第一 5章9-13節

はじめに

今日の説教の題は、「誰と交際してはいけないか」です。ここでの交際は、男女の交際ではありません。ですから今日の説教では、男女の恋愛についてお話するわけではありません。

イエス様を信じて洗礼を受け、教会員となった私たちクリスチャンは、どんな人たちと交わりを持ち、どんな人たちと交わりを持ってはいけないかということです。

1. クリスチャンは誰と交わりを持ってはいけないか

パウロは、コリント教会に「**不品行な者たちと交際しないように**」と言いました。

しかし、コリント教会のクリスチャンたちは、このパウロの言葉を、「**世の中の不品行な者、貪欲な者、略奪する者、偶像を礼拝する者と全然交際しないように**」と言われていると理解したのです。つまり教会外の未信者の中で、性的に乱れている人、欲深い人、人を騙して金儲けをしている人、神様以外のものを礼拝している人と一切交際すると言われていたと理解したのです。

しかしパウロが言いたかったことは、この世の中の罪深い人と一切交際するなどということではなく、イエス様を信じて洗礼を受け、教会員となったクリスチャンの中で、「**不品行な者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人をそしめる者、酒に酔う者、略奪する者がいたなら、そのような者とつきあってはいけない、いっしょに食事をしてもいけない**」ということだったのです。

しかしここでも、注意しなければなりません。イエス様を信じて洗礼を受け、教会員となった私たちクリスチャンも、なお罪の性質を完全に拭きません。ですから時に、お酒を飲むこともあるでしょう。人の悪口を言うこともあるでしょう。あれも欲しいこれも欲しいと欲深くなってしまふこともあるでしょう。

ここでパウロが交際してはいけない、つきあってはいけない、いっしょに食事をしてもいけないと言っているのは、教会から戒規を執行された人のことです。あまりにも重大な罪を犯し、教会から悔い改めを求められたにも拘らず、悔い改めようとしなくて、罪の中に生きようとする人のことです。

コリント教会には、重大な罪を犯している人がいました。それは、教会外の未信者の中にも見られないほどの性的な罪で、自分の父の妻を妻としているという罪です。これは、

自分の実の母を妻としているというよりも、自分の父の再婚相手などを自分の妻としているという罪です。これは、旧約聖書にも禁じられていることですし、一般社会でも禁じられていることでした。

パウロは、このような重大な罪を犯している教会員に戒規を執行し、教会から除名すべきだと考えていました。パウロが交際してはいけない、つきあってはいけない、いっしょに食事もしてもいけないと言っているのは、教会員の中に一般的な罪を犯している人ではなく、教会から戒規を執行され、除名されるほどの重大な罪を犯した人のことです。

2. 教会がすべきこと

しかし、コリント教会のクリスチャンたちは、依然として、教会外の未信者の中にも見られないほどの性的な罪を犯している人、戒規執行に値する人との交わりを止めようとしなかったのです。なぜでしょうか？それは、コリント教会が戒規を執行していなかったからです。除名していなかったからです。罪の問題を軽んじていたからです。

教会は、愛し合うこと、赦し合うこと、受け入れ合うことが求められます。神様が私たち罪人を愛し、イエス様の十字架と復活によって、私たちを赦して、受け入れてくださったことが、私たちの交わりの根底にあるからです。

教会は、どんな人をも受け入れるべきだ、どんな罪をも赦すべきだという暗黙の理解があるため、なかなか教会の戒規が執行され難い傾向にあります。

しかし教会は、あまりにも重大な罪を犯している教会員に対して、愛と寛容という名目のもとに、その罪を見過ごしにしてはならないのです。その教会員に罪の悔い改めを求めなければならないのです。そして、忍耐深く罪の悔い改めを求めたにも拘らず、その教会員が罪の中に生きようとする時、戒規を執行しなければならないのです。戒規は、その罪の性質に応じて、訓戒、職務の一時停止、陪餐（聖餐式に与ること）の一時停止、職務の剥奪、教会からの除名があります。

そもそもなぜ教会の戒規があるのでしょうか？教会は、どんな人をも受け入れ、どんな罪も赦すべきなのではないでしょうか？

教会の戒規の目的は、大きく分けて三つあります。一つは、教会の聖さを守るためです。教会はありのままがいいではありません。教会は、聖さに向かって歩まなければなりません。教会は、イエス様が再び来られる時、純白のウェディングドレスを着た花嫁として御前に立つために、純潔に向かって歩まなければならないのです。

二つ目は、罪を犯した人を悔い改めに導くためです。教会の戒規は、重大な罪を犯した人を見捨てるために執行するものではありません。重大な罪を犯した人が、教会の戒規を通して悔い改め、イエス様の恵みによる赦しを経験し、もう一度教会の交わりに回復するた

めに執行されるのです。

三つめは、教会内の腐敗の広がりを防ぐためです。教会が、重大な罪を見過ごしにする時、パン種のようにあつという間に、その罪の影響は教会に広がり、教会全体が腐敗していくことになるのです。

教会は、福音を語ると同時に、戒規も執行しなければなりません。それが地上の教会の宿命です。教会は、地上にある限り罪を完全には拭えないのです。罪の性質の恐ろしさとサタンの力強さを知っている教会は、福音を語ると同時に、罪の問題を軽んじないで悔い改めを求め、時には戒規も執行しなければならないのです。

3. 世に遣わされているクリスチャン

私たちが交わりを持ってはいけなは、教会の戒規を執行された人です。私たちは、その人が悔い改め、教会の交わりに回復することを祈りますが、その人が悔い改め、イエス様にある信仰によって教会の交わりに回復するまで、親しい交わりを控えなければならないのです。

私たちが交際してはいけなは、教会外の未信者の人ではありません。パウロが言うように、私たちが教会外の未信者の人と一切交際してはいけなかつたら、私たちは「**この世界から出て行かなければ**」なりません。

私たちクリスチャンは、世の中から離れて修道院のような生活をするべきなのではありません。私たちは確かに、世の中から神様によって救われた者たちです。しかし私たちは、世の中から離れて生きるべきではなく、むしろ世の中に遣わされているのです。

イエス様は、こう言われました。「**わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものでありません。**」(ヨハネ 17:16)「**彼らをこの世から取り去ってくださるようにならなくて、悪い者から守ってくださるようお願いいたします。**」(ヨハネ 17:15)「**あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました**」(ヨハネ 17:18)。

私たちクリスチャンは、イエス様によってこの世に、この社会に遣わされているのです。私たちの国籍は天にあります(ピリピ 1:20)。私たちの故郷は、天にあります(ヘブル 11:16)。私たちはこの世に旅人として生かされているのです(ヘブル 11:13)。私たちは、やがてイエス様がおられる天に帰る希望を抱きながら、この地上に遣わされているのです。では、私たちは何のためにこの地上に遣わされているのでしょうか？

それは、この地上に神の国をもたらすためです。そのためには、第一に、私たちは、イエス様を証して、人々に福音を宣べ伝えなければなりません。人々に悔い改めとイエス様への信仰を求めなければなりません。そして、洗礼へと導き、教会の交わりに加えなければなりません。第二に、私たちは、社会のあらゆる領域に、御言葉の支配をもたらしなければなりません。クリスチャンの政治家、芸術家、ビジネスマン、教育者、福祉に

携わる人、スポーツマンを送り出し、家庭にクリスチャンホームを生み出していかなければなりません。そうして、社会のあらゆる領域で、イエス様が王としてあがめられ、イエス様の御心が行われていき、この地上に神の国をもたらししていくこと、それこそ、私たちクリスチャンがこの地上に遣わされている目的です。

おわりに

教会は、罪の問題を決して軽んじることはできません。教会は、イエス様の花嫁として、聖さを保ち、純潔に向かって歩いていかなければなりません。

私たちクリスチャンは、天に国籍を持ち、天を故郷とする旅人です。私たちは、イエス様によってこの世に遣わされているのです。この世でイエス様を証し、この世に神の国をもたらすためです。イエス様は、私たちを用いて、人々を救い、教会を建て上げ、神の国をもたらそうとしておられるのです。

私たちは今、何のために生きていますか？